

研究テーマ： デジタルコンテンツを用いた発信型英語基本語句学習システムの構築	
研究代表者（職氏名）： 准教授 馬本 勉	連絡先（E-mail 等）： umamoto@pu-hiroshima. ac. jp
共同研究者（職氏名）：	

研究の背景

平成 18～19 年度・重点研究課題「広島県の英学史資源を活用した英語教育方法の改善」

- (1) 英語学習に関する歴史資料の収集と分析
- (2) 伝統的な指導法と ICT を組み合わせた英語学習法の開発

研究の目的

平成 20 年度：上記の成果から生まれた「DTR 学習法」を授業に組み込み、効率よく進めるための「学習システム」を構築する。

※DTR 学習法とは、Dictation, Translation, Re-translation の頭文字を組み合わせたもの。
CALL 教室の ICT を活用し、伝統的な指導法である「書き取り」「訳読」「復文」を一連の流れとして行う。英文の理解を深め、表現力を高めることをねらいとする。

研究成果の概要

- 1) 「DTR 学習法」で用いる音声、テキスト、スライド等のファイルを教材フォルダに蓄積し、ウェブサイトと組み合わせた「学習システム」を構築

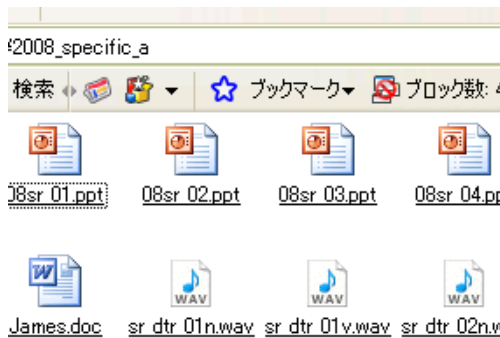


CALL ウェブサイト

→ 授業サイト →



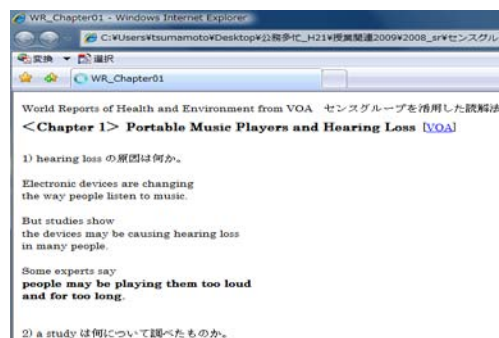
授業サイト



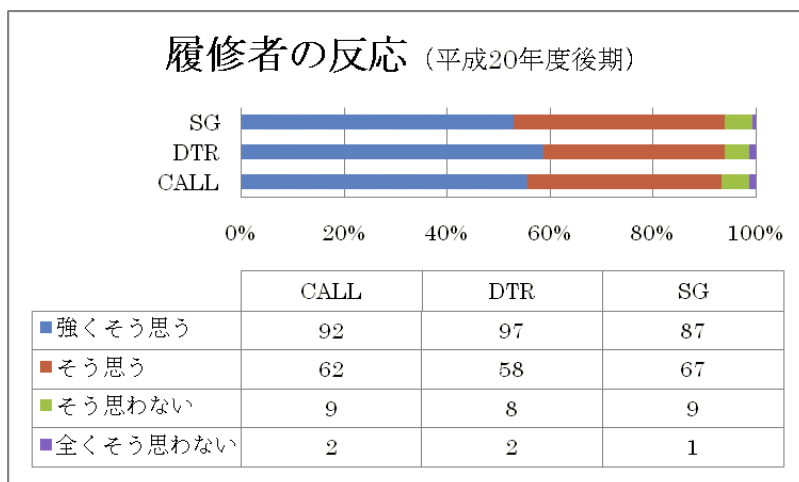
教材フォルダ

- 2) 「書き取り」「訳読」「復文」の単位となるフレーズ（センスグループ）を語句学習の単位とし、速読の基礎ともなる「センスグループを活用した読解法」を導入

テキストをセンスグループ毎に
改行した速読用の電子ファイル



3) 授業アンケートより



・SG (センスグループを活用した読解法) は、読解力 (速読を含む) の向上に役立つと思うか。

・DTR は、英文の理解や表現力の向上に役立つと思うか。

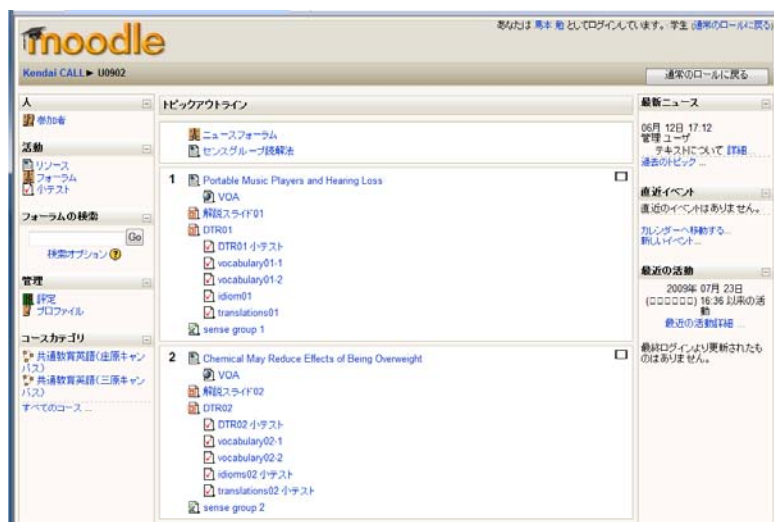
・CALL システムは、語学力や学習意欲の向上に役立つと思うか。

まとめと今後の課題

1) センスグループを意識することで、DTR 学習法の目指す「聴解・読解・表現」の習熟を促すことが示唆された。センスグループを的確に把握するためには、その核となる基本語句の習得が不可欠となる。一つの方法として「DCA 語彙拡充法」を提案し、試行中である。

※DCA とは、Definition, Collocation, Association の頭文字を組み合わせたもの。「定義」「連語」「連想」を活用し、応用範囲の広い語句知識の獲得をねらいとする。

2) e ラーニング的な「学習システム」の導入は、学習意欲の向上に寄与する。今後は LMS (学習管理システム) を導入し、より自律的な学習を促す仕組みを確立したい。



(上) LMS の一つ「Moodle」による教材配布画面

(下) Moodle による自動採点画面

